

関野委員長

続きまして、社会（歴史的分野）についてです。発行業者は8者、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社、学び舎です。ご意見をお願いいたします。

小竹委員

私は東京書籍、帝国書院、育鵬社についてですが、どの教科書も明治以降についての近代史に多くの紙面を使っており、内容的にも類似している部分が多かったと思います。また、資料とか写真、コラムに工夫がされておりまして、東京書籍、帝国書院は全体的に日本史と世界史のバランスがよく、また、最近の政治の流れまで書かれていると思いました。東京書籍

にはページの下方に年表が書かれており、今、どの時代を学んでいるのかを理解しやすいと思いました。帝国書院と育鵬社では、図、写真が東京書籍に比べて主観的ではありますが、図、写真がより見やすくなっていると思いました。育鵬社では日本史、世界史の比率を見ると、やや日本史中心の傾向を感じますが、その分で明治以降の史実をよく記載してあると思います。日本の歴史が世界の歴史に比べて多いという考え方もあるかもしれませんが、自国のことを中心に学ぶということはあってよろしいのではないかと思います。

また、人物紹介の点で 539 と多くの人物紹介がされておりまして、その人物紹介の仕方も「なでしこ日本史」という女性の方たちや外国人から見た日本ということで、いろいろ外国の方たち、それから日露戦争の舞台裏とか、いろいろなコラムで生徒たちが歴史に興味を持つ切り口を多くつくっていただいているのではないかと思います。最後の方に 2020 年の東京オリンピックの開催の記事が少し載っていたのが印象的でした。以上の点から育鵬社がよろしいかと思いました。

井上委員

歴史につきましては、我が国の歴史の大きな流れを理解するということが大変重要だろうと思います。そして歴史について考察する力や説明する力の育成、あるいはさまざまな伝統や文化の学習、そして我が国の歴史の背景となる世界史の扱いなど、総合的に判断した場合、東京書籍ですが、現在、藤沢市で使用されている育鵬社につきましても、文部科学省の新学習指導要領に忠実に沿っており、古い伝統や文化を継承させようとする特徴のある教科書だと思います。そして社会の歴史的分野におきます学習のポイントとしては、近現代の学習の一層の充実、そして歴史について考察する力や説明する力の育成、そしてさまざまな伝統や文化の学習の重視、そういったところを検討した場合に、私は現在使用されている育鵬社をもう一回使用してもいいのかなと考えております。

吉田委員

歴史の学習ですけれども、大きな目的はやはり歴史の流れを理解して、これからは生きる自分の役割を認識して、未来への生き方を考えることにあると思います。そういった意味で、私は先ほどから申しておりますように、学び方が学べる教科書というのに着目しております。

まず、帝国書院ですけれども、歴史のとらえ方、学び方、調べ方について 10 ページにわたって掲載していて、学び方がわかるという点では非常によいと思います。「タイムトラベル」としてステップが明確に示されているところも評価に値します。「学習の前にながめてみよう」、「学習をしながら確認しよう」、「学習を振り返ろう」では、改めて、はじめの学びの検証を行うようにしているという点においても、繰り返し学習をしていく

意義を感じさせます。「トライアル歴史」の「やってみよう」コーナーで、資料をもとにみずから考え、謎を解く、そのような仕組みになっているところも高く評価をしています。技術を磨くことにつながっていくと思うからです。

さらに歴史を深める意味において、「歴史を探ろう」につながれているところも歴史を学ぶ意義を非常に感じるどころです。また、章末に「説明しよう」というコーナーがあり、そこでパターンを示して、どの題材を選んでもいいようになっているという点においては、多様性があり、絵図と文字のバランスも非常によくとれている教科書だと思いました。

また、東京書籍ですけれども、こちらも歴史の学び方を非常によく例示をしていて、流れ全体にポイントを置いて、日本史、世界史のバランスがとてもよいと感じました。思い出しながらまとめていくように設定がなされておりますし、調べ学習については、テーマや調べること、考察の仕方を具体的に提示して非常にポイントがわかりやすいと感じました。また、丁寧に調べ学習について例示をしており、調査の達人として、図書やインターネットの使い方についても示しているところもございました。

課題学習については、「歴史にアクセス」や下段のところに「確認」というのがありまして、そこが自分の題材を見つけやすいような状況になっているというふうに思いました。「深めよう」や「トライ」なども課題とするテーマを見つけやすくなっており、時代を多面的、多角的にとらえられるまとめとしてのこの時代の特色をとらえよう、この時代の学習を確認しようという点においても課題がきちんと整理され、歴史の流れをまとめるという意味では最適ではないかと感じました。

また、今、2人の委員がおっしゃっている育鵬社ですけれども、前回の採択の際に課題であった、歴史の流れがわかりにくいという点は大変改善されていると思いますし、特に人物の扱いについてはどのように調べ、まとめればよいかということが明確に示されているように思います。「鳥の目、虫の目」という絵巻を通して見る日本の伝統文化にも興味・関心を引くようなものがあるというふうにも感じました。ただ、全体のバランスそれから繰り返し学ぶことを主眼に置いて、歴史の流れをとらえていく、日本史、世界史とのバランス、学びを通して自分の課題として歴史をとらえていく、そういった視点では東京書籍がよいかと思います。

阪井委員

この歴史で学ぶことは、先ほど井上委員もおっしゃいましたように、まず歴史の大きな流れを理解すること、そしてその歴史について考察する力や、それを説明する力を育成すること、また、近代・現代の学習をすることによって理解を深めること、伝統文化の学習、我が国の歴史の背景とな

る世界史の取り扱いを充実させることとあります。その中で私は2者の本について特色をお話したいと思います。

まず、東京書籍は歴史を学ぶという観点におきましては、非常に年表の色と各章の色が合わせられていることにより、時代を理解しやすくなっていることがよいのかなと思いました。また、本文下のページの特に左下の方に年表が載っているので、今、自分がどの時代のことを学んでいるのかということが理解しやすいつくりになっていると思います。まず、一番最初、本を開いたところから日本の国宝や重要文化財、そして世界遺産が写真で記されていて、歴史学習のはじめに、歴史は昔のことを記憶していく学習ではなく、過去の人々の生き方に関わる学習なんだよというような取り扱いになっていました。その中において「歴史スキル・アップ」、「深めよう」で、関心を持たせ、考えを深めて、さらに広げられていくような工夫をされていると思いました。同じページの中に語句の説明が、番号が振っていてわかりやすくなっているのもよいと思いました。「歴史にアクセス」、「調査の達人」、「女性コラム」など技能を身につけたり、それに関連する内容を深めること、また、女性の姿を紹介し、理解を深めるようなつくりになっているのもよいと思いました。「トライ」や「確認」で学習内容を確認して深めていくこともできるようになっておりました。各章に「私たち歴史探検隊」というコーナーがあって、地域の歴史を調べる学習活動をしていけることも示されていました。旧東海道の藤沢宿にあった我が市が地域の歴史を調べるときには、これを活用することができるのかなと思いました。

一方、育鵬社ですけれども、一番最初に「これから歴史の旅を始めます」ということで、歴史のものさしが表示されていて、年代や時代の区別があらわされ、「人物Q&Aカードのつくり方」ということで、人物と歴史の理解ができるように、最初に記述されておりました。各章のはじめに、ものさしの入った年表で学習の範囲が表示されていて、この歴史を旅していくというイメージで船の写真が各章のはじめに出ておりました。歴史の絵巻を「鳥の目」で見ることで大きな時代の流れを確認し、「虫の目」でいろいろな問題が提示され、本文に入っていくというつくりになっていました。その本文の中には人物がクローズアップされ、「歴史ズームイン」でさらに学びを深めていけるつくりになっています。用語も欄外にきっちり書かれていて、資料集がなくてもわかるような編修になっていました。図や写真もあって「調べてみよう学習」では、これらを使って理解を深めていくことができるかと思います。「このころ世界は」というようなページも用意されていて、世界史もちゃんと記述されています。「なでしこ日本史」

で活躍する女性が紹介されているのは、社会参画をしていく女性のことが記述されているのも非常にわかりやすいと思いました。巻末についていた年表においては、日本の主なできごと、政治、経済、社会と合わせて文化が別に記されています。文化・芸術については多数掲載されているので、人物紹介の数や文化・芸術についての紹介も多く、非常に読んでいて楽しくなるような教科書だったように思います。いずれの教科書も非常に工夫がされていると感じました。

関野委員長

私は歴史の教科書は育鵬社がいいなと感じました。何と言っても、先ほどからお話に上がっていますけれども、取り上げられている人物の数が539人と圧倒的に多いです。子どもたちが歴史に興味を抱くには、より多くの人物に触れることはとてもよいことだと思います。また、「なでしこ日本史」というコーナーでは、各章の終わりに、その時代の女性を多く取り上げていて、女性が活躍することに期待されている今の時代の子どもたちに大きな勇気を与えるのではないかと感じました。また、遊行寺の一遍上人ですとか、富嶽三十六景の「神奈川沖浪裏」など、藤沢にかかわりのあるものも取り上げられていて、子どもたちもとても興味がわくのではないかと思います。また、各章の話に、これも先ほどからたくさんお話があがっていますけれども、「鳥の目」と「虫の目」で見るというページがございまして、その時代の全体像、また特徴的な部分が非常にわかりやすくまとめられていて、とてもいい教科書だなと思いました。

関野委員長

いろいろな視点からご意見をいただきましたけれども、総合的に判断しまして、社会（歴史的分野）は育鵬社ということによろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議ありませんので、社会（歴史的分野）は育鵬社にいたします。